

令和6年度 立川市西砂学習館運営協議会会議録（第10回）

日 時：令和7年2月4日（火）午後6時00分～午後8時40分 （敬称略）

出 席：大橋 加藤 広瀬 小笠原 長谷川 岩元 能村 森

欠 席：内金崎 杉之原 小林

傍 聴：無し

事務局：高野 俣本

1 開会のあいさつ

大橋：1月19日は西砂会館のうどん作り大会に参加。地運協チームは「盛り上げてくれたで賞」で6位だった。北海道や日本海側の大雪、埼玉県八潮市の陥没事故が心配。
2月15日の地域学習館運営協議会交流会に向けて西砂学習館の推しを確認したい。

2 令和6年度地域活性化講座について

（1）「西砂ウィンターイベント」報告について

1月定例会で報告できなかったアンケート報告について

森：食事する人数について。材料を残さないようにしたいので、今後、人数の確定はしっかりしたい。

高野：スタッフ含めて人数を確認する。

大橋：フードロスの関係もある。無駄のないようにしたい。

（2）「にしすな親子塾」について

非常時の防災食作りについて

被災時に冷蔵庫や自宅にあると思われるものでおいしく出来る防災食づくり

日時：令和7年3月2日（日）午前10時30分～午後2時

会場：西砂児童館

対象：小学生親子

講師：NPO法人立川災害ボランティアネット 副理事長 新井氏 ほか3名

詳細の打ち合わせ 1月23日（木）午後1時 副理事長 内容別紙参照

高野：資料2参照。1月23日に打ち合わせを行った。児童館内の動線ではが厳しいとのことだった。講座は10時30分スタート14時終了、講師4名で対応したいとのことだった。定員は30人、小学1年生以上から対象。会場を学習館にするか、材料代は実費負担にするか検討が必要。

大橋：2点検討が必要。会場を学習館に変更するか。

小笠原：安全を確保ということなら学習館で実施も考えたほうが良いが、不自由な中でいかにやるかも考えてみたい気持ちもある。講座の時間が長いと感じる。児童館での調理実習は10時30分にスタートして13時に終わるのはどうか。参加児童の集中力が持つか心配。学習館は駐車場があるのが良い。親子塾を西砂会館で行ったこともあった。

実施会場にこだわりはない。防災食と言うわりに予算的な事も含めて贅沢な内容かと思った。

森：講座のイメージがわからない。どのような割合でコンロを使うのか。提案通りの品数を作るのは大変ではと思う。もっとシンプルでも良いと思う。

大槁：30人くると5人6グループになりどのように作るのか分からない。

岩元：メニューは盛りだくさんでは。会場は学習館での実施が安全。

小笠原：児童館の教室は火を使う想定にはなっていない。アレルギーの確認は必要。

大槁：各グループで3種類作れたら良い。

森：ご飯が柔らかくなる過程を見られると楽しそう。

大槁：品数はメイン、おかず、デザートで3品で終了時間は13時としたい。

高野：今週中に会場、無洗米について確認する。

大槁：材料費は足りない分を参加者負担にするか。

小笠原：児童館の調理実習でも材料費200円は集めている。

大槁：不足分の材料費は集める。

岩元：アイラップやハイゼックスも必要になる。

小笠原：申込期間、チラシはどうするか。

高野：早々に準備する。チラシは学校に配る。チラシができたなら委員に確認して頂く。

森：タイムスケジュールが事前にわかるとお手伝いのイメージがしやすい。

高野：各グループに講師のスタッフが1人付く予定。

森：最低6人は来てくださるのか。

高野：その予定。

加藤：防災食というより料理講座になっているようにも思える。防災食なので災害時に家でどうやるかが基本。

高野：想定は水、お湯が使えたらという条件。

大槁：講師にタイムスケジュールをお聞きし、分かり次第メールで委員に連絡し詰める。

(3) その他

高野：3月2日の親子塾に合わせ関東大震災の写真をロビーに展示したいと思っている。

森：ショッキングな写真は外したい。

3 協議、報告及び連絡事項

(1) 前回の議事内容の確認（議事録）

大槁：何かあれば事務局まで。

(2) 地域学校コーディネーターとの連携について

- ・地域学校コーディネーターとの第3回情報交換会について
- ・日程 令和7年3月予定

定例会後、各地域コーディネーターと調整し、出席見込の高い日で設定する。
大橋：今年度 3 回目の情報交換会になる。1 月 23 日は地域学校コーディネーターの連絡があった。報告を受けたい。

岩元：統括コーディネーターの小松先生がいらしていたとのこと。残念ながら私は出席できなかったのも、もしご存じなら教えて欲しい。

高野：この地域は西砂小から鈴木さん、平山さんが来ていた。3 つのグループになり、課題を出した。ヤングケアラー、校長によって方針が変わってしまう、青少健との連携がうまくいかないなど話がでた。また西砂小の漢字検定の話も出た。

大橋：情報交換会でお話を聞かせていただきたい。

(3) 「西砂学習館まつり」について

- ・第 1 回実行委員会 令和 7 年 2 月 5 日（水）午後 1 時 30 分 視聴覚室

- *会則通り、実行委員長、副実行委員長を選任

- *展示、舞台発表会、催し物等について

今後の予定

- ・第 2 回実行委員会 令和 7 年 4 月 9 日（水）午後

- ・振り返り会（第 3 回）令和 7 年 6 月 18 日（水）午後

(4) 各委員から報告及び連絡事項（報告）

加藤：「GLP 昭島プロジェクト」と「立川ユネスコセミナー」のチラシを配布。GLP については感覚的に影響が多いのは昭島より西砂地域と思っている。2 月 12 日から 14 日までエクセル入門講座を開催。その時にシニア期の生きがいの宣伝ということで広報課の取材が入る。

広瀬：先日は議員との意見交換会があり参加した。参加者は 11 名で内 5 名が地運協委員だった。テーマは地域で考える移動支援だったが、実際は地図を広げてどこが不便かという内容だった。交通一般の不平不満がたくさん出ていた。2 月 8 日はタウンミーティングがあり市長が西砂学習館に来る。去年は 30 人位が来て驚いた。

高野：去年は GLP の関係で 30 人くらい来ていた。

大橋：同じ市民でも北エリアと南エリアで福祉面、文化面で享受に差がある。巡回するとか考えることが大事。

小笠原：西砂児童館の中規模改修が延期になった。今後の行事は 2 月 11 日こども未来センターにて市内全児童館合同の児童館フェスティバルを開催する。実行委員長を務める。来年度の松中学童入所者 70 名が決まった。3 月 4 日は地域交流会の開催を予定。3 月 16 日西砂子ども祭りを開催。今のメンバーで最後の開催となる。

長谷川：麦踏の時期になった。2 月 22 日は体育会 50 周年式典。毎年 12 月に行っていた放課後子ども教室の餅つき大会は、規模を小さくし 3 月 1 日に行う。

岩元：西砂川地区文化会のうどん作り大会にご参加いただきありがとうございました。西砂

川地区文化会は、昨年9月に再スタートし、体制は確立できていないが伝統行事はやりたいと思っている。保護司会では研修会を行った。保護司活動は地域興しと聞いた。学校現場では不登校の子どもの課題を多く抱えている。6中で支援員をしている。不登校の生徒と一緒に数学の勉強をしている。子どもと話している意味、繋がりが大事と思っている。今の子ども達の力になればと思う。

広瀬：傾聴ボランティアのように子どもの話を聞くことならできる。

能村：3月11日に情報誌「きらり・たちかわ」の春号がでる。特集は「ファーレ立川アート30周年」。図書館巡りは柴崎図書館。柴崎図書館は第一小学校とつながっている。

明るくて施設のデザインが凝っている居心地の良い図書館だった。

森：西砂パソコン倶楽部では来週エクセル講座を予定している。広報課の撮影があるので緊張している。3月は団体企画型講座で内容は動画作成を予定している。

俣本：2月5日、12日はシリーズ発達障がい「ママの立場で」の講座を開催する。

高野：コピー機をロビーに移動し使いやすくした。図書館前に学習コーナーを2席作った。

広瀬：子ども達が多い時は新聞を見るスペースがない。

高野：図書館前に四角テーブルと丸テーブルを用意している。

大橋：学生や新聞を読む方と場所の奪い合いが起こってきている。教室の空き状況はどうか。

高野：教室の利用率は高くなっている。特に火曜日と金曜日はかなり高い。

大橋：どこかで話し良い解決策を見つけていきたい。

(5) 地域学習館運営協議会交流会

令和7年2月15日(土) 午後2時から

立川市役所3階302会議室

➤ テーマ「我が学習館の『推し』を語ろう」

大橋：推しを考え、持ち寄り他館と交流をする会。西砂地運協は委員の出席率が良いと言われている。全員が集まる日程で会議を開催している。珍しいことのように。会議の最後に委員の所属の活動報告がある。会議の在り方が良い。

加藤：以前、他の地運協委員が傍聴に来た時に会議日の設定方法に驚いていた。また委員が児童館、青少健、地域学校コーディネーターなど地元で色々と活動している方がメンバーで地域に密着した活動をしている。地域学校コーディネーターと連携している地運協はここだけ。この地域は立川の端にあり交通の便が悪いが地域と密着した素晴らしい活動をしている。

大橋：構成メンバーが生きている。地域密着型の活動に繋がっている。

広瀬：前回の会議で5つまとめた。1、4つの柱の講座の組み立て。2、通信3、会議開催日の設定方法4、委員の意識の高さ。ここが生涯学習の拠点となろうと意識がある。5、西砂産直売会。課題は、新しい住民にいかに関心の行事に参加してもらうか何か生み出す何か…に繋がっていけないかと思われる。課題。学習館がそういう場所と委員の意識に根付いている。意識が高い。

小笠原：地運協の魅力。乳幼児の子育てひろば、地運協が行っているサマーウインター

イベント、中高生の学習の場、大人から高齢者までの繋がりなど使用する世代の広さ。子育てひろばがあるのは砂川学習館と西砂学習館だけ。子育て世代が気軽に学習館に来て学習館でのサークル活動や講座の情報をキャッチできる。講座の企画で柱を立てているのは大きい魅力と思う。

長谷川：西砂学習館は色々な世代が利用している。地運協も色々な得意技がある。他の地運協は分からないが話を聞くとこの地運協はバランスが良いと思う。

岩元：以前お話ししたことで皆さんのご意見の通り。昨日、保護司会の研修会があった。保護司の活動は地域興しと話をしてくれた。地域学校コーディネーターにも通じると感じた。

能村：一番の特徴は会議の日程調整。委員の都合を聞き日程を調整するのは柔軟で良い。あとはサマーイベントの子ども達の居場所づくり。委員だけでなく地元ボランティアに協力をしている。

森：各委員の人柄の良さが魅力。色々な意見を受け止めてコミュニケーションができています。この地元を皆さんが愛していて、当事者としてこの地域を良くしようと意欲があり委員になっている。

俣本：委員の人柄、のどかな景色が魅力。

高野：推しについて出ってしまった。会議の開催日は西砂地運協以外は固定で決まっている。

大橋：交流会に参加の委員は現地集合を。

（6）その他

高野：備品が古いものが多いので更新したいと考えている。2月18日から松中小の書初めを1階ロビーで展示する。その展示後に関東大震災の写真を展示する。

5 その他

○ 次回の地域学習館運営協議会の日程について

※ 次回開催；次回は、令和7年3月11日（火）

<配布資料>

- ・〈資料1〉ウィンターイベントアンケート報告
- ・〈資料2〉親子塾打合せ内容